

オリンダ通信

第8号

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」会報

共同代表：松本敏之、大倉一郎
 事務局：横浜港南台教会 秋吉隆雄
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
 Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616
 郵便振替口座番号：00210-2-97571

畑に隠された宝を見つけつ

小井沼眞樹子

レシーフェはマンゴーの実りの季節を迎えています。熟したマンゴーがボトボト路上に落ちていて、散歩の道すがらそれを拾い、天から降ってきた恵みを味わっています。その甘くておいしいこと！日常の小さな幸せです。

皆さまとのネットワークによって支え守られて、ブラジル宣教が続けられています。また、折節に各地から届くカードやお便りにも、大変励まされています。感謝しつつ、第2期目の初めの報告をお届けします。

★昼と夜の間をいきつ戻りつ

3月から6月までの一時帰国中、13教会と他の2カ所で説教と宣教報告をいたしました。アルト・ダ・ボンダーヂ教会の人々の生活状況と信仰を紹介し、地球の両側で連帯の輪が広がったことを実感。勇気と希望を新たに7月1日から、第2期の宣教奉仕に着任しました。

懸案だったコミュニティー・センター建設が、6月に始まり、荒野が整地され基礎工事に取り掛かっていました。帰任後2日目からアルト教会恒例の冬季聖書学校が始まり、昼夜逆転の睡魔に襲われながら5日間休まず参加。加えてアメリカのメソジスト教会からボランティアグループ12名が到着。彼らが建設現場で働く合間に、地域の家庭を訪問して交流に努め、ハードな歩み出しでした。

やっと時差が取れて調子が出始めたころ、父の訃報が届き日本へ逆戻り。酷暑の日本で1ヶ月間喪に服し、日本時間に体が慣れてきたころ再出国、8月24日にレシーフェに帰着しました。度重なる時差の調整でいささか辛い思いをしましたが、今は元気にしています。

留守続きの日々でしたが、戻る度に皆の強い抱擁に迎えられる…待っていてくださる共同体があることは本当に幸せなことです。天国の応援団にもう一人が加わり、毎朝、天国と地上の両方から届く祈りに励まされて一日が始まります。



★味付けに変化をつける？

第2期には「一味も二味も違う報告を期待しています」とは事務局長の弁。助走期間の第1期が終わってこれからは本番！と意気込みはよろしいものの、いざ始めてみるとやはりまだまだ言葉の不自由が続き、大事なニュースもよく聞き取れず、周囲で起こっている出来事がぼんやりとしか把握できません。日常の行動範囲も限られています。

その上、親しくしてきた神父たちはそれぞれ要職に転任、超多忙人になって、私の話し相手になっている暇がないように見えます。またジョアン・ペソアのイエズス会神学院ジュニオラードがレシーフェに引っ越したので、疲れたときの隠れ家がなくなったような寂しさです。新しいジュニオラードはジョアン・ペソアよりずっと近いのですが、まだ関われずにいます。何と言っても20年の長い友情の積み重ねがあるジョアン・ペソアが私にとって格別の場所でした。これからも年に一度は訪問して基礎共同体の人々とつながって生きていきたいと願っていますが、ひとつの時代が終わった感を拭えません。

そういう事情で、今まで私を取り囲んで守ってくれた友人や場所からどんどん引き離され、いやおうなしに宣教生活が新しい段階に入っていることを意識させられています。もう誰かに「おんぶにだっこ」を期待してはいけません。「そろそろ大人に成長しなさい」という促しを心に感じています。実際は高齢者の仲間入りですが。

ノルデスチで、より自律的に生活できるようになるためには、やはり語学力向上が必須ではないか。そう考えて、励んで辞書を引きつつ印刷物を読み、ニュースや人

の話に耳を傾けています。どれくらいものになるか？

随時、興味深い内容をキャッチし、ご紹介したいと思います。

ブラジルにおける宗教人口の推移

2012年6月29日付フォリャ・ジ・サンパウロ紙より

*ブラジル地理統計局(IGGE)の国勢調査2010年版のデータによると、1960年から50年間で、カトリック教徒の数は総人口の93.1%から**64.6%**に減少。逆にエヴァンジェリカ(プロテスタント)教会の信徒数は6.6%から**22.2%**に上昇し、そのうちペンテコステ系は13.3%、伝統的プロテスタント教会は4%に過ぎない。その他の心霊術(エスピリト)や土着宗教を合わせて5%。無宗教の人は1.9%から8%に増加していることが明らかになった。

*カトリック人口は都市部より地方で割合が高く、反対にエヴァンジェリカは都市部の方で割合が高い。

*所得別にみると、所得ゼロから最低給料までの割合はカトリックで59.2%であるのに対し、エヴァンジェリカでは67.3%を占めている。

★いのちの糧はどこから

第2期には何をするのかと問うても、別段これまでと違う計画は持っておらず、引き続きアルト・ダ・ボンダーヂ教会に寄り添って牧会中心に生活しています。また、保育園ジェンチノーヴァの新しい施設建設に協力を続けて行きます。

集会や訪問のなかで、皆の語ることを注意深く聞いていますが、ポーボ(民衆)はそれぞれの苦難の生活体験からみ言葉の真理をくみ上げて、日毎のいのちの力として生きているように見受けられます。

聖書の言葉がシンプルに、いのちの光として人々を励まし、喜びを与え、力を発揮していく様には、いつも感動します。ここでは難しい解釈論や神学問答はあまり出番がありません。

祖国と家族から遠く離れて異文化のなかで暮らす者にとって、この親しい「神の家族」の存在は、本当に生きる力の源になっています。元気いっぱい神さまを賛美し、感謝の証をし、涙の祈りをささげる人々のいのちのダイナミズムに触れるとき、私たちの内に復活のイエスが臨在されると実感し、こころが熱くなるからです。

畑の中に隠された宝を見つけた商人は、自分の持ち物を全部売り払ってその畑を買う、というマタイ福音書のたとえ(13章44節)を思い出します。

私自身は小さく、まことに頼りない者で、この地に立ちあがる罪と悪の現実の前で、無力な存在に過ぎませ

ん。皆さんとのネットワークに支えられて宣教生活が成り立っていることを、感謝し心強く思っています。

ある方がメールで「困難の伴うブラジルでの働きも、眞樹子さんにとっては必然性のあるものなのでしょう」と書かれ、思いを新たにしました。私がここにいることを神さまがお望みなのです。確かに、私がこの地に身を置くことで、神のみ心が少しずつ実現している手ごたえを感じ取っています。

第2期も、み心の実現のために用いられている幸せを、皆さんと分かち合っていきたいと思えます。

* * * * *

ここまで書いて、所用に追われているうちに新たなニュースが飛び込んできました。主任のイヴァン牧師の転任が決まったというのです。新任地は未だ不明。11年の長きに渡ってアルト教会を牧会、指導してきたイヴァン牧師が去ることは、共同体にとっても新たな節目となることは間違いありません。このような教会の状況変化の中で、私自身の宣教参加にも変化が生じることは確かです。期待されることを正しく受け止め、応えていく心ぞなえをしています。



最近の礼拝風景

音楽献金へご協力を

音楽活動は現在2名の講師がギター、ドラムのクラスを受け持ち、15名の生徒たちが習っています。その運営費用はすべて皆さんからの献金で賄われています。

その他の社会活動として、空手教室が始まり、週3回実施、参加者は子供から大人まで30名。また地域の子供たちには、読み聞かせ創作教室を提供し、10名が参加。これらの指導者はボランティア(無報酬)ですが、諸活動のコーディネーターの青年にも音楽献金から報酬を出しています。どうぞよろしく願いいたします。

クレシエ・ジェンチ・ノーヴァ建設中です！

クレシエ（保育園）ジェンチ・ノーヴァ（新しき人々）を主な活動とするコミュニティ・センターの建設工事が、6月初旬から始まりました。25年間荒地だった土地が、いまや「こどもの園」に変貌しつつあります。

このプロジェクトは、ノルデスチ教区の社会奉仕の一環として位置づけられ、メソジスト教会総会が認可。責任者はノルデスチ教区のマリーザ・フェレイラ監督（ビスパ）とセンター運営責任者、ジウマーラ・オリベイラ牧師です。

クレシエ・ジェンチ・ノーヴァは1987年に、アメリカ人宣教師によってオリンダ市アルト・ダ・ボンダージ地区に建設されました。そこを拠点に教会活動が始められ、アルト・ダ・ボンダージ・メソジスト教会が誕生したのです。

貧困と暴力に苦しむ地域で、母親たちが安心して働けるように2歳から5歳までの子どもたちを無料で保育しています。現在92名の子どもが登録されており、朝7時30分から夕方5時まで、5回の食事（おやつを含む）とキリスト教に基づく保育、安全で子どもに相応しい生活時間が提供されています。地域にはさらに多くの子どもたちが、保育の場を必要としており、新しい施設建設は関係者にとって長年の夢でした。



第2期の工事現場



現場で働くボランティア



クレシエ 25周年感謝礼拝の子どもたち

建設計画は4期に分かれていて、現在第4期目の工事にさしかかっています。

建設資金の総計は38万9千500ヘアイス（約1600万円）。現在、3期までの資金が充たされ、第4期の10万レアイス（約400万円）を募金中です。募金にはブラジル国内はもとより、アメリカ、カナダ、ドイツ、オーストラリアなど国際的な協力が得られていますが、とりわけ日本から6万ヘアイス（約240万円）を第1期に献金したことで、建設工事が始動したと評価されています。

建設作業には、アメリカのメソジスト教会が現在までに4回、異なる州からボランティア・グループを送って協力を続けています。皆さんのこれまでのお祈りと献金を感謝し、「センター献金」に引き続きご協力をお願い申し上げます。

ビスパ マリーザ監督の話

この保育活動を継続していくことは、神様の業を果たすことであり、神の力を願い求めること、さらには置かれている社会の只中であって、私たち自身が主に従うべく回心を迫られていくことでもあります。今、目の前にいる子どもたちは、神が愛をもってこの世に送り出されたのです。これらの小さき者を愛し世話をすることによってのみ、この世界が主のものであり、私たちは世界をケアする責任を負っているのだとわかるでしょう。聖霊の働きによって、私たちと同じように皆さんの心にも、神のご計画へ参加したいという思いが生れますように。皆さんのご協力をお待ちしています。

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会計報告 金額は省略 2012. 4. 1～10. 30

収 入		支 出	
項 目	累 計	項 目	累 計
会費・特別献金		支援金	
利息		事務費	
		振込手数料	
		集会費	
小 計		小 計	
前年度繰越金		次月へ繰越	
合 計		合 計	

収 入		支 出	
項 目	累 計	項 目	累 計
音楽・施設・センター献金		支援金	
		振込手数料	
小 計		小 計	
前年度繰越金		次月へ繰越	
合 計		合 計	

年会費・特別献金者名 (敬称略・順不同)

2012. 4. 1～10. 30

氏名、団体名 省略 (91 件)

音楽・センター献金者名

氏名省略

音楽献金

氏名省略

編集後記

この夏、眞樹子先生は第二期のブラジル宣教に着任されました。周りの状況が変化中、神様のみ心を実現すべく再出発された先生の近況報告をお読みください。

若者を対象とした音楽教室、子どもの読み聞かせ創作

教室、大人も参加している空手教室など、生き生きとしたお働きが続けられています。また、新しいコミュニティ・センターの建設も完成が待たれます。

これからも、皆さまの変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。 (横浜港南台教会員：I. T)